

川棚川水系河川整備基本方針の 変更が必要である

現在の基本方針は破綻しており、変更
する必要がある
どう変更すればいいか

2026年8月30日 今本博健

写真 長崎県HP 2012.12撮影

基本高水のピーク流量等一覧表

基本高水のピーク流量等一覧表

(単位: m^3/s)

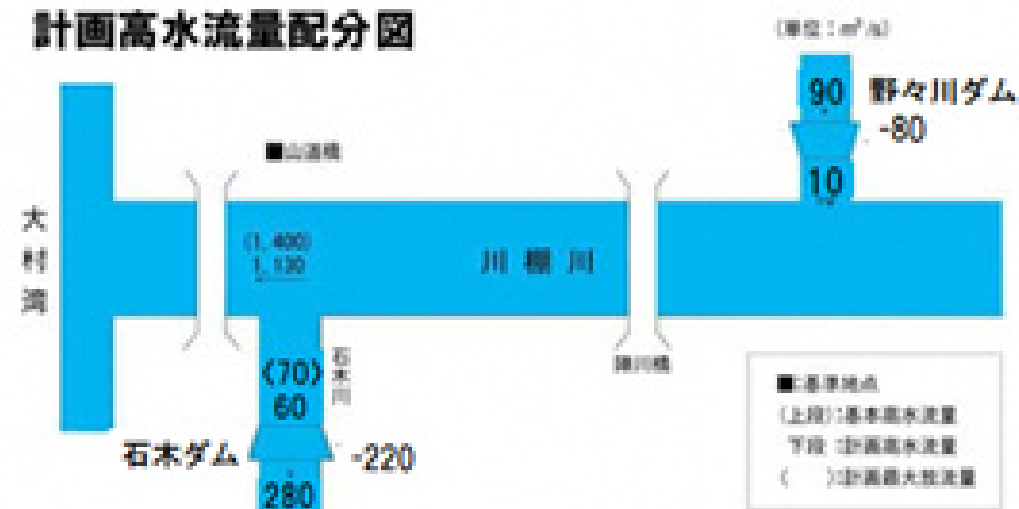
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
川棚川	やまみちばし 山道橋	1,400	270	1,130

川棚川水系河川整備基本方針 2005.11より



川棚川流下能力図

計画高水流量配分図

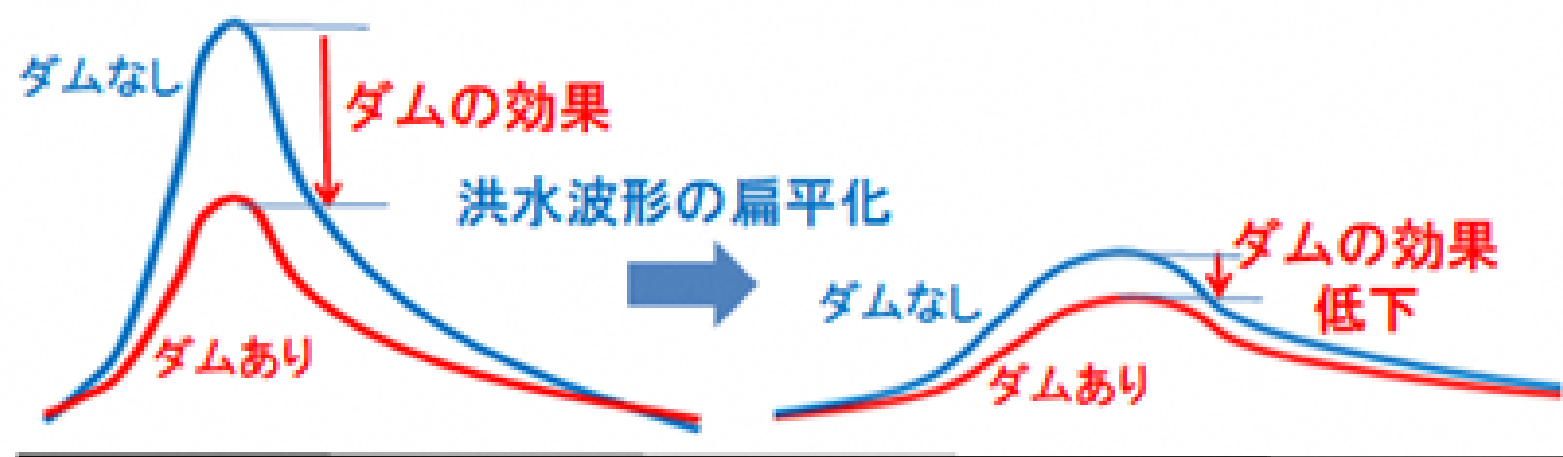


流量超越(ピーク流入量時)

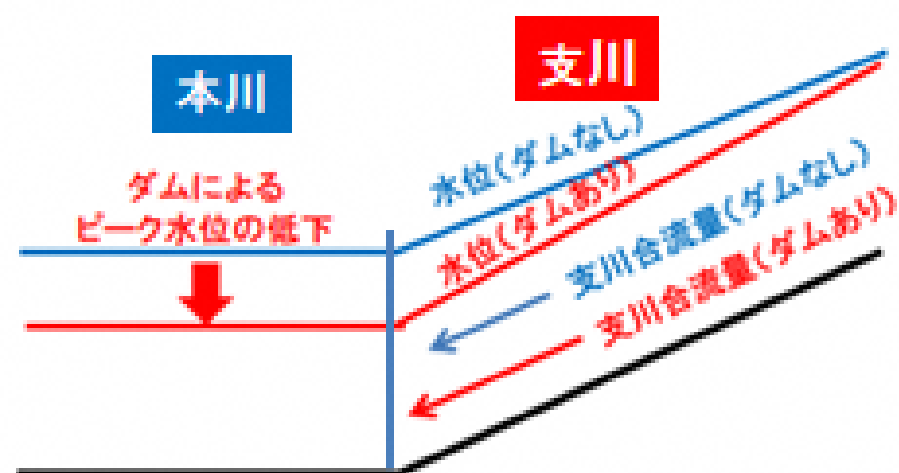
野々川ダム $80\text{m}^3/\text{s}(90 \rightarrow 10)$

石木ダム $220\text{m}^3/\text{s}(280 \rightarrow 60)$

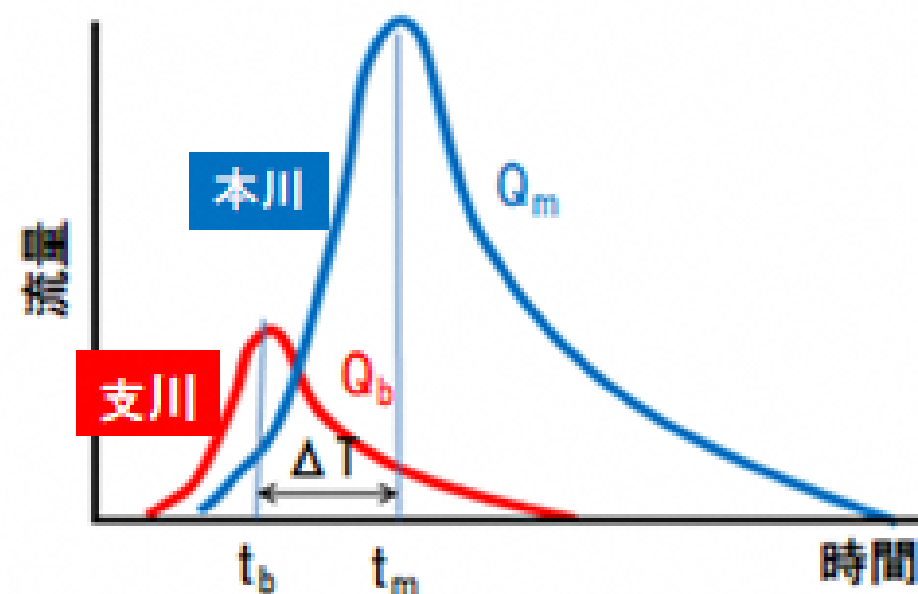
ダムの効果の低下



① 流下に伴う洪水波の扁平化



② 本川水位の上昇抑制による 支川合流量の増加



③ 本支川間のピーク時間差

野々川ダムの効果

- ① 長崎県は $80\text{m}^3/\text{s}$ と見積もっている。
- ② 野々川川と川棚川合流点(約15km)から石木川合流点(2.0km)までに洪水波形の扁平化が発生する。
- ③ また、この間に多くの河川が合流しており、それぞれにおいて「本川水位上昇の抑制」による支川合流量の増加がある。
- ④ さらに、野々川川と川棚川合流点での流域面積は、野々川川 2.6km^2 、川棚川約 20km^2 と大きな差があり、流路延長にも差があることから、本支川間のピーク差がある。

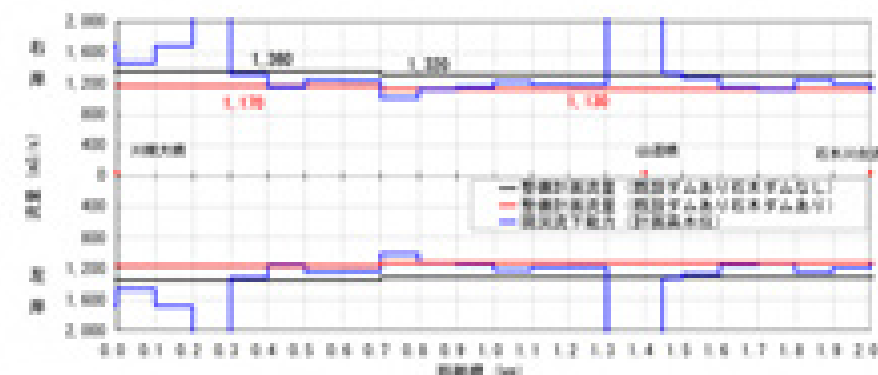
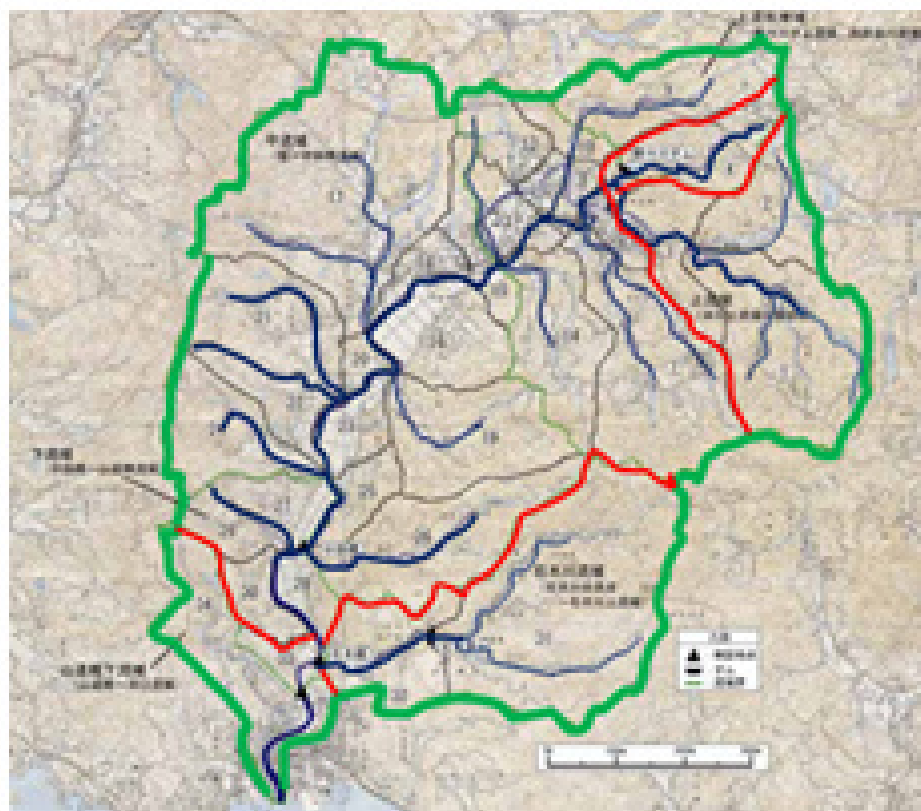


図 1.4 川棚川流量図

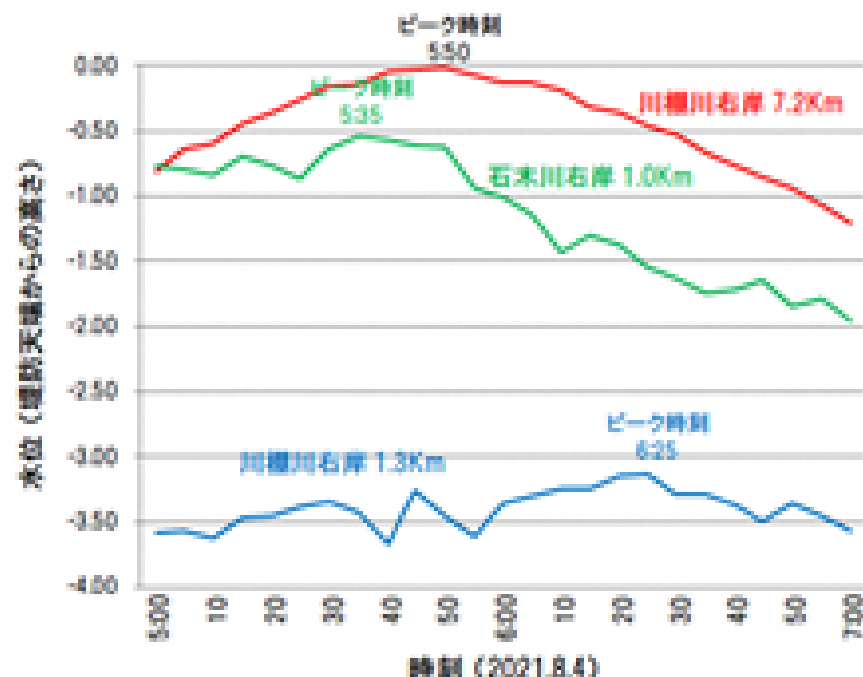


川棚川流域分割図

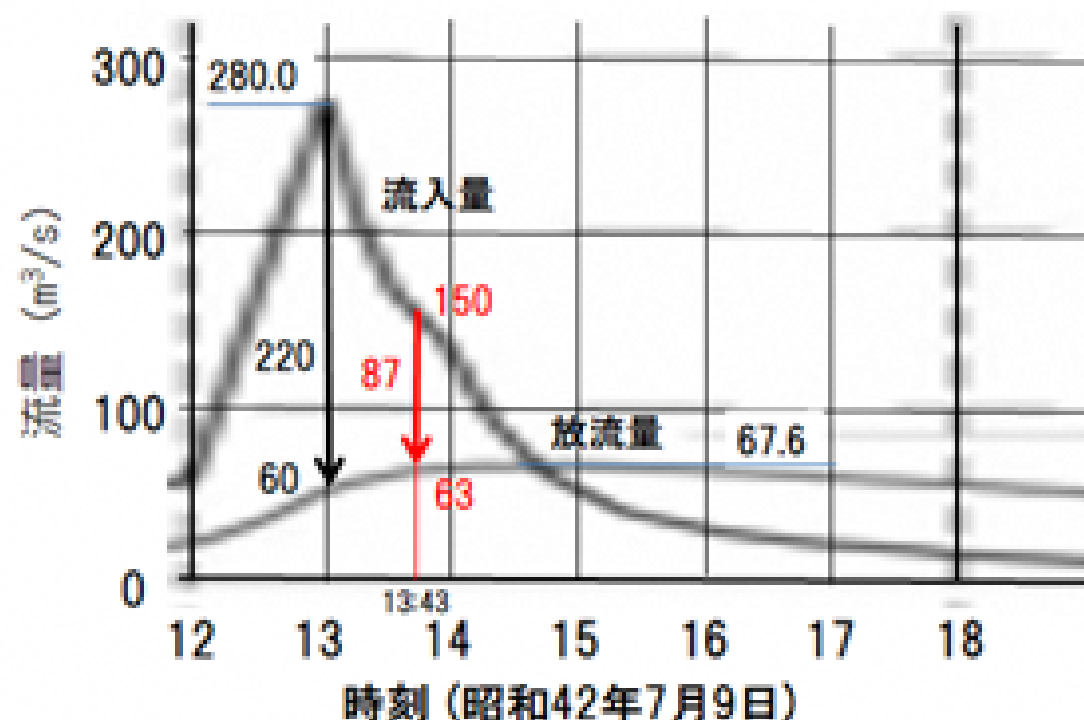
野々川ダムの効果は
数 $10\text{m}^3/\text{s}$ 程度

石木ダムの効果

石木川・川棚川合流点における流域面積
 石木川流域面積 11.8km^2 (石木ダム 9.3km^2)
 川棚川 65.3km^2



危機管理型水位計による観測結果

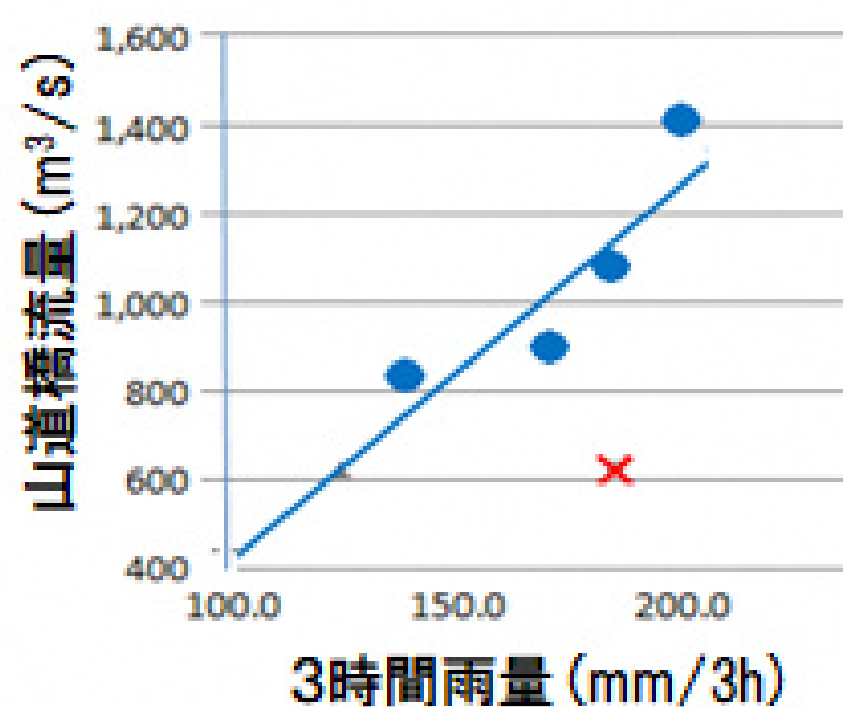
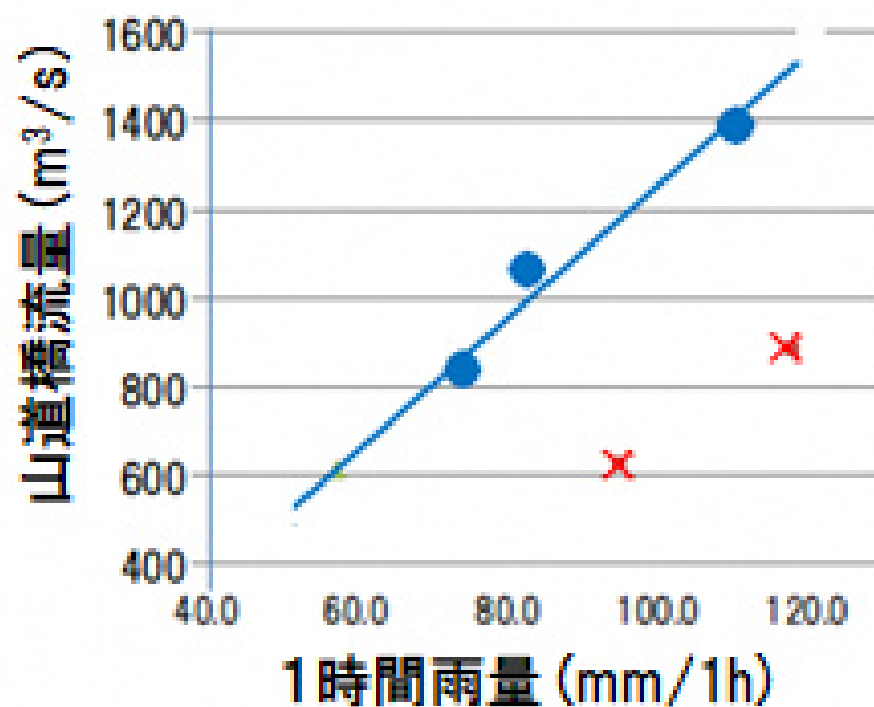


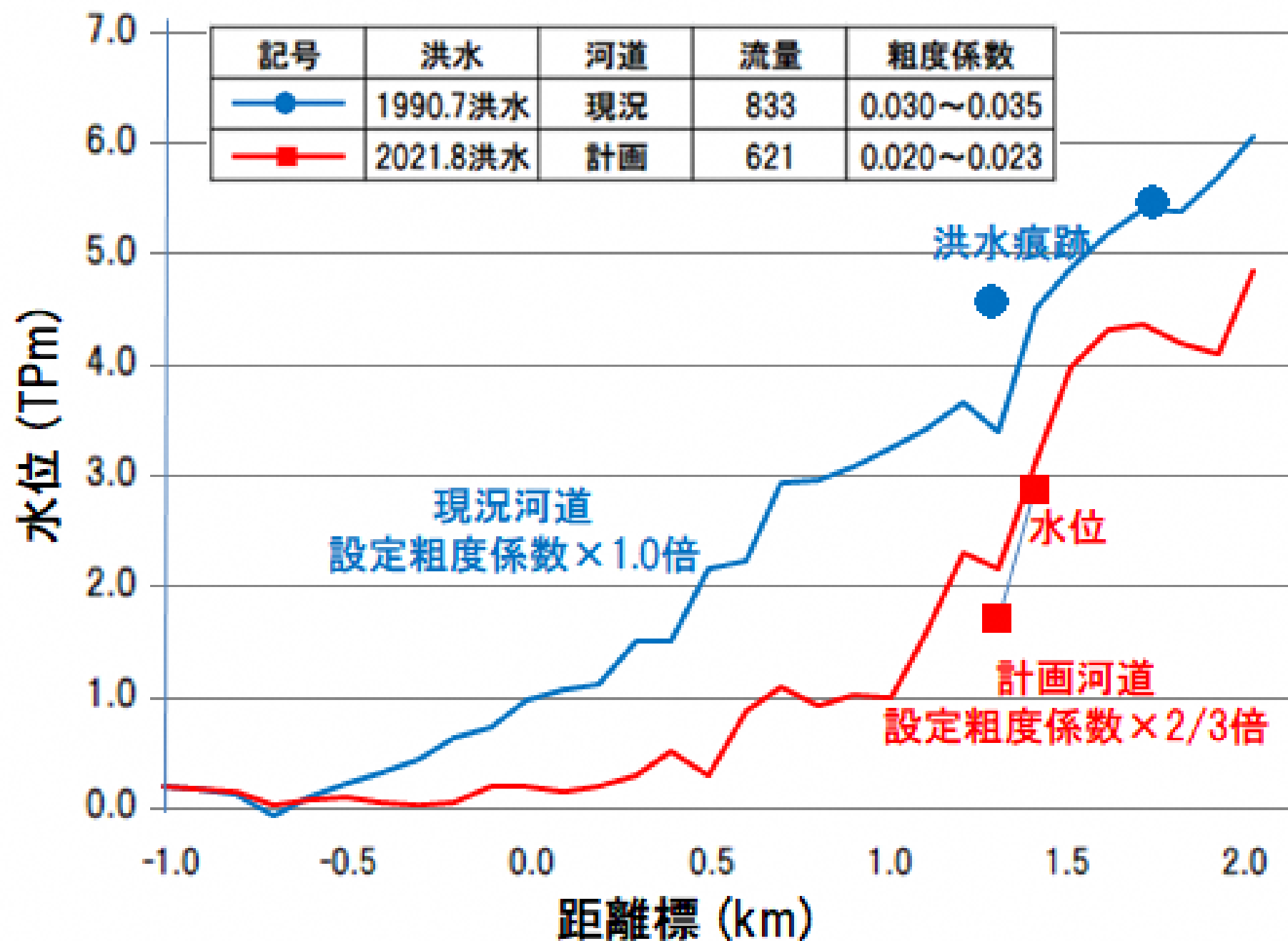
石木ダムによる洪水調節

石木ダムの効果は $90\text{m}^3/\text{s}$ 弱

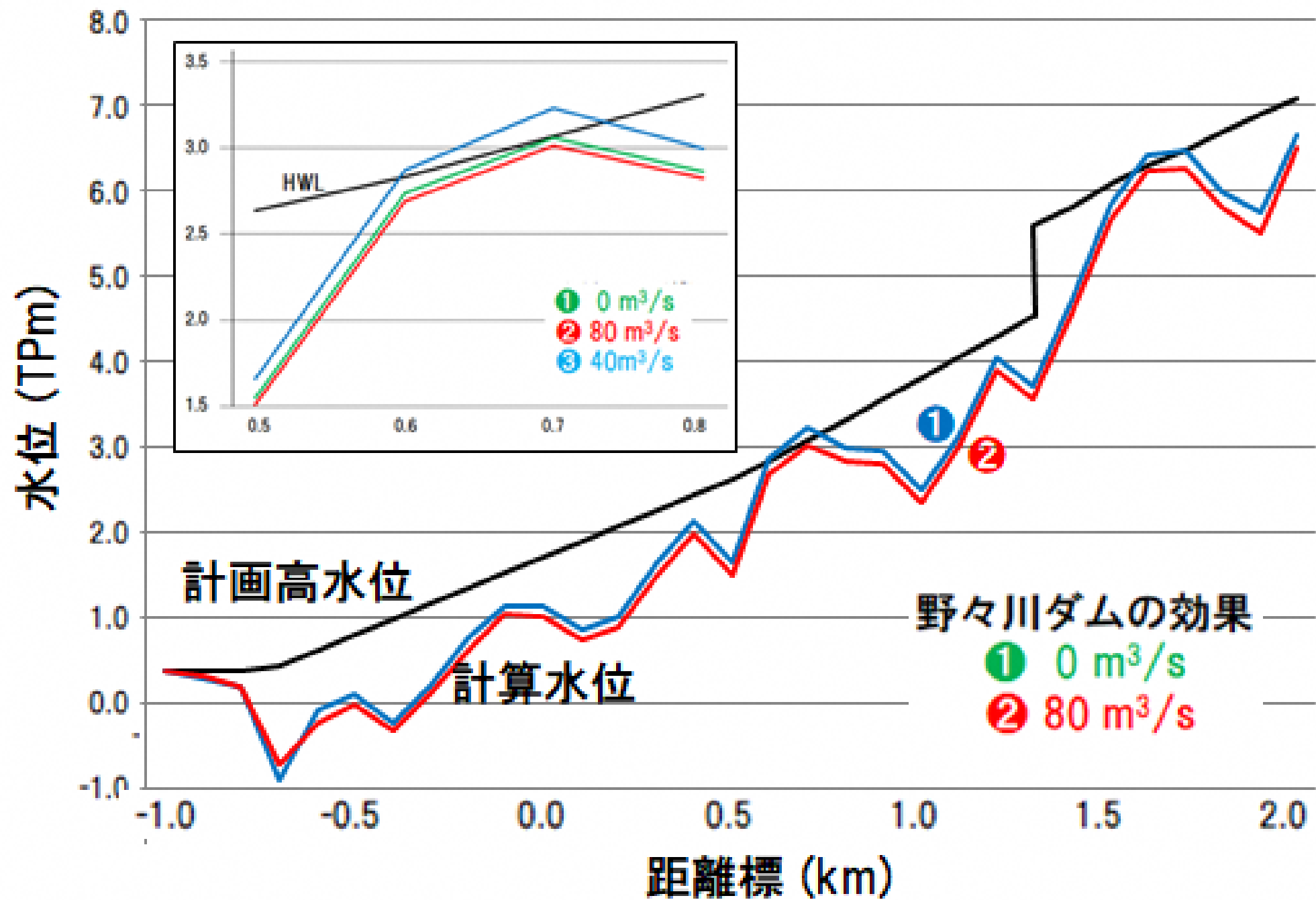
表2 川棚川既往洪水の雨量および山道橋流量

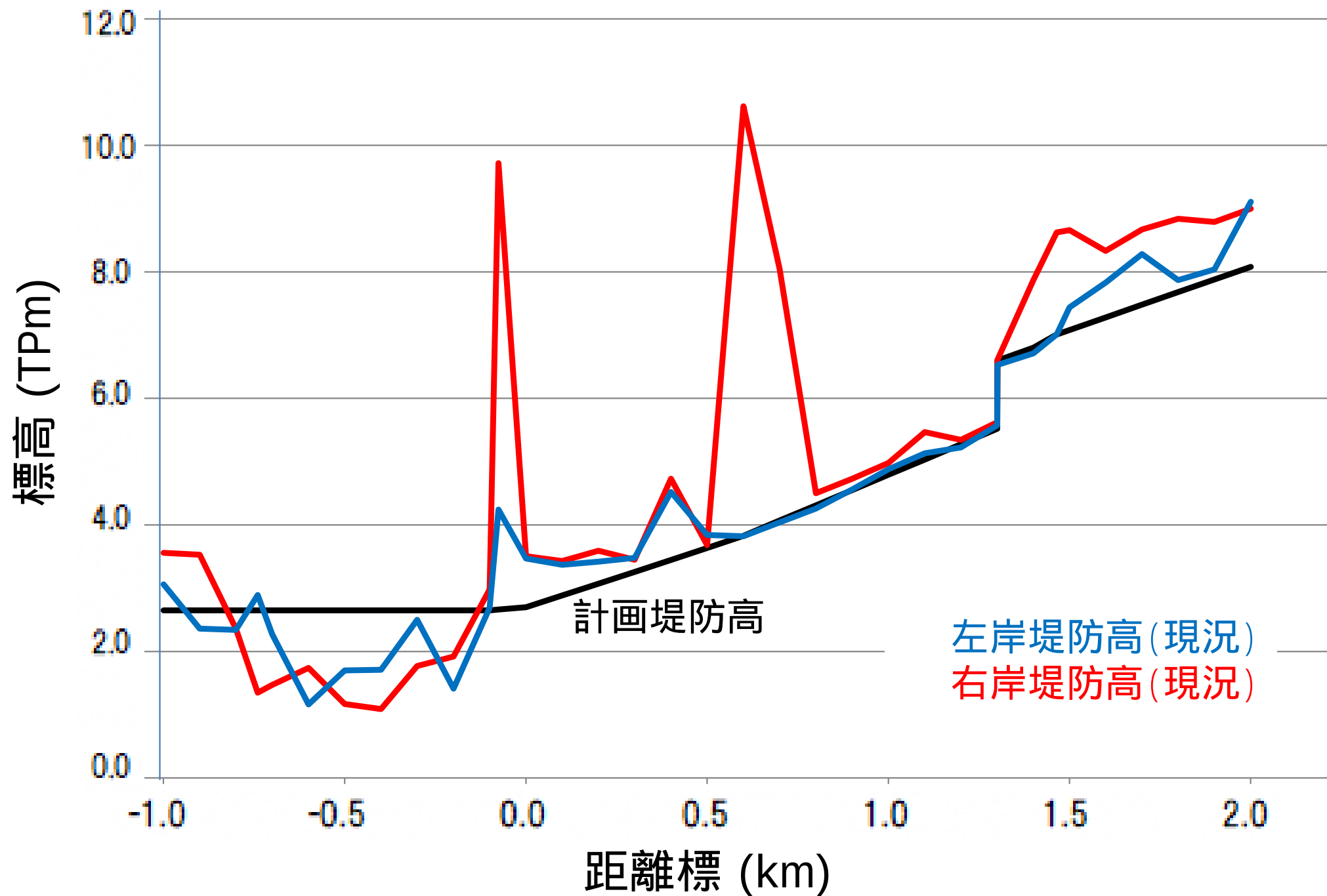
洪水/雨量	1時間雨量	3時間雨量	24時間雨量	山道橋流量
計画洪水	110	203	400	1400
1948.9洪水	83	188	384	1067
1956.8洪水	95	188	280	624
1967.7洪水	117	173	223	881
1990.7洪水	74	140	348	833
2021.8洪水	57	125	493	621





2021.8洪水水位と計算水位の比較





現況堤防高と計画堤防高の比較

基本方針の変更

変更前

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量	洪水調節施設によ る調節流量	河道への 配分流量
川棚川	やまみちばし 山道橋	1,400	270	1,130

変更後

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量	洪水調節施設によ る調節流量	河道への 配分流量
川棚川	やまみちばし 山道橋	1,400	20	1,380



石木ダムを中止しよう
道路工事は進んでいるが
まだ間に合う